(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3763363号
(P3763363)
(45)発行日　平成18年4月5日(2006.4.5)　(24)登録日　平成18年1月27日(2006.1.27)

(51)Int.Cl.　F I
A41G 3/00 (2006.01)　A41G 3/00 J
A41G 3/00 F

請求項の数 6　(全 12 頁)

(21)出願番号　特願平7-238994
(22)出願日　平成7年8月25日(1995.8.25)
(65)公開番号　特開平9-67710
(43)公開日　平成9年3月11日(1997.3.11)
審査請求日　平成13年9月12日(2001.9.12)

(73)特許権者　000126676
株式会社アデランス
東京都新宿区新宿１丁目６番３号
(74)代理人　100080698
弁理士　小田　治親
(72)発明者　佐藤　好信
新潟県北蒲原郡中条町平根台１番地１アデランス工芸株式会社

審査官　冨江　耕太郎

(56)参考文献　実開平２－１１１１７（ＪＰ，Ｕ）
実公昭３８－６３３７（ＪＰ，Ｙ１）
実開平４－２５８１９（ＪＰ，Ｕ）
特開平２－４１４０４（ＪＰ，Ａ）
最終頁に続く

(54)【発明の名称】かつらの固定方法

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
かつらベース周縁部の少なくとも後頭部分に、自毛とかつらを結着する結着紐をかつらベースの外側へ適宜間隔で露出するようにして挿通したかつらベースを用意する工程と、かつらベースをかつら装着者の頭部に載せて、結着紐の外側露出部に自毛編込み用糸の一端を結着する工程と、
複数本の頭部残毛自毛からなる束を、自毛編込み用糸を結着した結着紐の外側露出部あるいは該外側露出部に隣接する外側露出部とかつらベースとの間に通して引き上げる工程と、
該自毛束と結着紐の外側露出部に結着した自毛編込み用糸とで編込む工程と、
編込みが行われた自毛束の先端側部分を自毛束を引き上げた結着紐の外側露出部と隣接する外側露出部に巻き付ける工程と、
巻き付けが行われた自毛束の先端側部分と自毛編込み用糸とで再編込む工程と、
を含んで構成されてなることを特徴とするかつらの固定方法。
【請求項２】
かつらの固定方法において、自毛編込み用糸は、少なくとも２本以上を使用することを特徴とする請求項１に記載のかつらの固定方法。
【請求項３】
かつらベースの周縁部に挿通した紐の外側露出部に結着した編込み用糸の他端を引張った状態で、少なくとも編込む工程、巻き付ける工程及び再編込む工程がなされることを特

徴とする請求項１又は２に記載のかつらの固定方法。
【請求項４】
かつらベースを用意する工程において、かつら結着用の結着紐を、かつらベース周縁部の周方向及び該方向と直交する方向を１サイクルとして適宜間隔で外側に露出するようにして挿通したことを特徴とする請求項１～３のいずれか１項に記載のかつらの固定方法。
【請求項５】
再編込む工程において、再編込みがされた自毛束の先端側部分が自然に垂れ下がる方向となるような方向に、巻き付けが行われた自毛束の先端側部分を自毛編込み用糸に再編込みすることを特徴とする請求項１～４のいずれか１項に記載のかつらの固定方法。
【請求項６】
最初の編込む工程の後に自毛束の締付け工程を、そして、再編込む工程の後に編込み箇所の緩みを防止する工程を、それぞれ、行うことを特徴とする請求項１～５のいずれか１項に記載のかつらの固定方法。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、頭部かつらの固定方法のうち、固定力に優れ、長時間の装着が可能で、しかも、固定解除が簡単なかつら固定方法及びそのようなかつら固定方法に用いるかつらベースに関する。
【０００２】
【従来の技術】
ヘアピースのような部分かつらを頭部に装着、固定する方法としては、従来より種々の方法が提案されている。
【０００３】
特開昭６２－１４１１０７号及び特開平２－４１４０４号公報では、装着者の頭部毛髪を編込むなどでかつらを固定する方法を開示している。例えば前者の場合、かつら装着者の頭部周辺の残毛自毛を紐状体からなる編込み糸で編込んで頭部にかつら取付部なるものを形成した後、かつら本体を頭部に載せ、該かつら取付部とかつら本体とを縫着等の手段により固定する。
【０００４】
また、特開平４－６５５０４号公報では、かつらベースの外縁に袋帯を配設し、該袋帯に紐を適宜間隔で外側に出しながら挿通して、該紐に自毛を結着した後に結着箇所を接着剤で固定する方法が開示されている。さらに、実開平５－６６０１２号公報では、ネットベースからなるかつらの縁に網目の細かいネットで構成されたネット止着部なるものを配設して、該ネット止着部の網目に自毛を直接結着する方法が開示されている。
【０００５】
【発明が解決しようとする課題】
しかしながら、特開昭６２－１４１１０７号公報の場合、予め頭部周辺の残毛自毛を編込んでかつら取付部を形成する必要があり、かつら本体を固定するためには、かつら取付部形成工程及びかつら本体を頭部に載せ、該かつら取付部とを縫着等の手段で固定する工程の２段階から成るので、固定作業に長時間を要すること、及びかつら本体を縫着等の手段でかつら取付部に固定しているために、頭部残毛自毛がかつら本体に直接作用しておらず、かつらの固定力が低下するという欠点を有する。また、このような間接的な固定方法では、残毛自毛の成長と相俟って短期間にかつらを固定し直さなければならない原因となっていた。
【０００６】
また、特開平４－６５５０４号公報及び実開平５－６６０１２号公報では、かつら本体に直接自毛を固着または結着しているために、かつらの固定力は強いが、かつらを外す時に自毛を切断する必要が生じ、かつらの繰り返しの着脱が困難であるという欠点を有す。あるいは、自毛を切断せずにかつら本体と自毛との固着または結着を解いてかつらを外すこ

とが可能であったとしても、自毛との固着または結着箇所を解く作業は手間がかかり、且つ該作業時に自毛の切断あるいは脱毛を招く危険性が高いという欠点も有す。

【０００７】

本発明は、上述した従来方法の問題点に鑑み固定力に優れ長時間の装着が可能で、しかも、固定解除が簡単なかつら固定方法を提供することを目的とする。

【０００８】

本発明は、そのようなかつら固定方法に用いるかつらベースを提供することを目的とする。

【０００９】

【課題を解決するための手段】

本発明の第一の態様に係るかつらの固定方法は、かつらベース周縁部の少なくとも後頭部分に、自毛とかつらを結着する結着紐をかつらベースの外側へ適宜間隔で露出するようにして挿通したかつらベースを用意する工程と、かつらベースをかつら装着者の頭部に載せて、結着紐の外側露出部に自毛編込み用糸の一端を結着する工程と、複数本の頭部残毛自毛からなる束を、自毛編込み用糸を結着した結着紐の外側露出部あるいは該外側露出部に隣接する外側露出部とかつらベースとの間に通して引き上げる工程と、該自毛束と結着紐の外側露出部に結着した自毛編込み用糸とで編込む工程と、編込みが行われた自毛束の先端側部分を自毛束を引き上げた結着紐の外側露出部と隣接する外側露出部に巻き付ける工程と、巻き付けが行われた自毛束の先端側部分と自毛編込み用糸とで再編込む工程と、を含んで構成されてなることを特徴とするかつらの固定方法を提供する。

【００１０】

この態様の好ましい実施例では、自毛編込み用糸は、少なくとも２本以上を使用する。

【００１１】

この態様の他の好ましい実施例では、かつらベースの周縁部に挿通した紐の外側露出部に結着した編込み用糸の他端を引張った状態で、少なくとも編込工程、巻き付け工程及び再編込工程がなされる。

【００１２】

この態様のさらに好ましい実施例では、かつらベースを用意する工程において、かつら結着用の結着紐を、かつらベース周縁部の周方向及び該方向と直交する方向を１サイクルとして適宜間隔で外側に露出するようにして挿通する。

【００１３】

この態様のさらに他の好ましい実施例では、再編込工程において、再編込みがされた自毛束の先端側部分が自然に垂れ下がる方向となるような方向に、巻き付けが行われた自毛束の先端側部分を自毛編込み用糸に再編込みする。

【００１４】

この態様のさらに他の好ましい実施例では、最初の編込工程の後に自毛束の締付け工程を、そして、再編込工程の後に編込み箇所の緩みを防止する工程をそれぞれ行う。

【００１５】

本発明の第二の態様に係るかつらベースは、かつらベースの周縁部の少なくとも後頭部分へ、自毛とかつらを結着する結着紐を、かつらベース周縁部の周方向及び該方向と直交する方向を１サイクルとして適宜間隔で外側に露出するようにして挿通したことを特徴とする。

【００１６】

【発明の実施の形態】

以下、図面を用いて本発明のかつら固定方法及びそれに用いられるかつらベースについて詳細に説明する。

【００１７】

本発明に係るかつら固定方法の典型的な第一実施例を図１～図２０に示したが、初に、このかつら固定方法に使用するかつらベースについて説明する。

【００１８】

図１は、本発明に係るかつら固定方法に使用されるかつらベースを示した正面図である。

【００１９】

このかつらベース１は、ネット形状あるいはシート形状から成り、基本的に、従来周知の種々の構成を採ることができる。かつらベース１の少なくとも後頭部分、好ましくは、全周縁部に網地状物、シート状物あるいは織布状物を縫着あるいは接着剤等の手段により固着して、紐挿通部３を形成する。図２に示したように、図示された好ましい実施例においては、かつら結着用の結着紐４が、かつらベース周縁部の周方向及び該方向と直交する方向を１サイクルとして適宜間隔で紐挿通部３の外側に露出するようにして紐挿通部３の全周にわたって挿通されている。結着用の結着紐４は、材質、モノフィラメントあるいはマルチ等の形態、伸縮性の有無、太さなど任意に選択して使用出来る。結着紐４の紐挿通部３への挿通の仕方は、図示されたもの他種々あることは言うまでもない。

【００２０】

次に、本発明に係るかつら固定方法を説明すると、先ず、前記のようなかつらベース１を用意する。

【００２１】

かつらベース１を図１に示すように、かつら装着者の頭部２に載せる。自毛編込み用糸７として同一の材質、形態及び太さから成る糸を３本用意し、これら自毛編込み用糸７を一束として一端を図２で示すように結んでおく。自毛編込み用糸７については、材質、モノフイラメントあるいはマルチ等の形態、伸縮性の有無など任意に選択して使用可能であるが、太さが１ｍｍ以下で且つかつら装着時の迷彩効果を持たせるために黒色に着色されていることが好ましい。

【００２２】

そして、自毛編み込み用糸７の結び目１０付近を、かつらベース周縁部の周方向と直交する方向に向かってかつらベース１の外側に露出した紐部分４ａに図３（ａ）で示すように引っ掛けて結着する。なお、図３（ｂ）は、その結着方法の一例を示したものである。

【００２３】

次に、図４に示したように、紐部分４aに隣接するかつらベース周縁部の周方向に挿通した紐部分４bに釣針８のフック部分を挿入し、かつら装着者の自毛を数本引っ掛けて矢印で示した方向に釣針８を引き上げ、図５に示す通りに自毛を紐部分４bとかつらベース１の間に通して引き上げる。自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂと紐部分４bとが直交しているため、この自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂの引き出しが容易になりそのための作業時間が短縮される効果がある。

【００２４】

それから、図６以降に示す通りに、引き上げた自毛編込み用糸に編込む自毛束５bを紐部分４aに結着した３本の自毛編込み用糸７a，７b，７cを用いて絡ませ編込んでいく。この時、編込み作業を容易にすること及び自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂと自毛編込み用糸７との絡力（絡み合う力）を向上させるために、図示はされていないが、自毛編込み用糸７の紐部分４aに結着している側の端部にある程度のテンションを掛けて引張させておくことが好ましい。

【００２５】

次に、自毛編込み用糸に編込む自毛束５bの編込み工程の第一ステップは、自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂと自毛編込み用糸７との絡合締め付けのステップである。図６に示すように、自毛編込み用糸７aと自毛編込み用糸７bと自毛編込み用糸７cとの間に自毛編込み用糸に編込む自毛束５bを矢印１１で示す通りに自毛編込み用糸７cから自毛編込み岡糸７aに向かう方向に通し、さらに、矢印１６で示した方向に自毛編込み用糸に編込む自毛束５bの先端側部分５ｃを引っ張りながら移動させて自毛編込み用糸に編込む自毛束５bを締め付ける。

【００２６】

そして、図７で示すように、自毛編込み用糸７bが上になるようにして自毛編込み用糸７aに交差させて、自毛編込み用糸７bを一回旋回して自毛編込み用糸７aに絡ませた（第二ス

テップ）後、図８で示すように自毛編込み用糸７cを自毛編込み用糸７aの側に移動させる（第三ステップ）。さらに、自毛編込み用糸７bを自毛編込み用糸７a及び７cと対向する側へ移動させて、自毛編込み用糸７aと自毛編込み用糸７bとの間に自毛編込み用糸に編込む自毛束５bを矢印１２で示すとおりに通す。しかる後、矢印１６で示した方向に自毛編込み用糸に編込む自毛束５bの先端側部分５ｃを引っ張りながら移動させてこの自毛編込み用糸に編込む自毛束５bを締め付ける。

【００２７】

さらに，図９に示すように、自毛編込み用糸７ｃが上になるようにして自毛編込み用糸７ｂに交差させて自毛編込み用糸７ｃを一回旋回して自毛編込み用糸７ｂに絡ませる（第四ステップ）。しかる後、図１０及び図１１で示すように，自毛編込み用糸７ｃが自毛編込み用糸７ａ及び７ｂの上になるようにして交差させて（第五ステップ）自毛編込み用糸７ｃを一回旋回して、自毛編込み用糸７ｃで自毛編込み用糸７ａ及び７ｂを一緒に絡ませる（第六ステップ）。

【００２８】

そして、自毛編込み用糸７bを図１２の矢印で示す通りに自毛編込み用糸７a及び７cと対向する側に移動させ（第七ステップ）、図１３で示すように自毛編込み用糸７a及び７cと自毛編込み用糸７bとの間に自毛編込み用糸に編込む自毛束５bを矢印１７で示す通りに通す（第八ステップ）。しかる後、矢印１６で示した方向に前記自毛編込み用糸に編込む自毛束５bの先端側部分５ｃを引っ張りながら移動させて自毛編込み用糸に編込む自毛束５bを締め付ける。

【００２９】

図示された好ましい実施例では、自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂの編込み工程の後に自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂの締付け工程が入っている。図１４で示すように、自毛編込み用糸７bを自毛編込み用糸７cの側に移動させ、自毛編込み用糸に編込む自毛束５bを矢示した通りに自毛編込み用糸７b及び７cを一緒に一回旋回して紐部分４aの方向に引っ張りながら締め付ける。しかる後、図１５に示す通りに、自毛編込み用糸に編込む自毛束５bを自毛編込み用糸７aに一回旋回して同様に紐部分４aの方向に引っ張りながら締め付けを行う。この自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂの締付け工程は、適宜繰り返して行う。

【００３０】

自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂの締付け工程の後は自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂの紐部分４ｃへの巻き付け工程であり、自毛編込み用糸７a，７b，７cで編込まれた自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂの先端側部分５ｃを図１６で示す通りに自毛を引き上げた箇所に挿通した紐部分４bに隣接するかつらベース周縁部の周方向と直交する方向に挿通した紐部分４cに巻き付けて、自毛をかつらベース１に直接作用させる。この自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂの巻付けは、自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂを解くことが困難になる程強固にする必要はない。

【００３１】

次の工程は、紐部分４cに巻付けた後の自毛編込み用糸に編込む自毛束５bと自毛編込み用糸７との再度の絡合編込み工程（図示せず）であり、最初の編込み工程と同様に行う。ただし、自毛編込み用糸に編込む自毛束５bを自毛編込み用糸７に通す時には、最初の編込み工程と逆の方向、即ち、図６の点線矢印１３で示す方向、図８の点線矢印１４で示す方向、および図１３の点線矢印１８で示す方向で行う。この再編込み工程を行うことにより、編込み作業終了後に自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂの先端側部分５cが図１９で示すように残毛自毛５と同方向を向いて、編込み箇所の迷彩効果が向上する。

【００３２】

最終の工程は編込み箇所の緩み防止工程であり、図１７で示すように、自毛編込み用糸７cが上になるように自毛編込み用糸７a及び自毛編込み用糸７bに交差させた後、図１８で示すように自毛編込み用糸７cの紐部分４aに結着されていない端部７ｃ　′を自毛編込み用糸７a及び７bの手前側に引き出して矢印で示した方向に引っ張り自毛編込み用糸７ａ，

７ｂ同士を締め付ける。この最終工程は適宜繰り返して行うが、２あるいは３回が好ましい。

【００３３】

以上の編込み工程から緩み防止工程までが自毛編込みの１サイクルであり、該工程を順次繰り返すことで図２０で示すように所望箇所を編込むことができる。最後に、所望箇所を編込んだ後に、自毛編込み用糸７ａ，７ｂ，７ｃの紐部分４ａに結着した側と反対の側を一束としてかつらベース周縁部と直交する方向に挿通した任意の紐部分に結着してかつらの固定作業を終了する。

【００３４】

また、装着したかつらを外す時は、図１９の破線１５で示した箇所の自毛編込み用糸７を切断するだけで良い。破線１５の位置で自毛編込み用糸７を切断すると、残毛自毛５及び自毛編込み用糸７は、捩じりが戻って容易にばらけ、かつらベースは残毛自毛５から自然に解き外される。かかる現象は、自毛を切断する必要がなく、また、残毛自毛５を痛めること無く発生するから、再度のかつらの装着にも支障をきたさない効果がある。

【００３５】

本発明に係るかつら固定方法の典型的な第二実施例を図２１～図２３を用いて説明する。

【００３６】

先ず、かつらベース１を図１に示すようにかつら装着者の頭部２に載せる。第１実施例と同様に自毛編込み用糸７を３本用意し、該自毛編込み用糸７a，７b、７cを一束として一端を図２で示すように結んでおく。次に、図２１に示すように、該自毛編込み用糸７の結び目付近がかつらベース周縁部の周方向に挿通した紐部分４bにくるようにして引っ掛けて結着する。そして、自毛編込み用糸７を結着した紐部分４bとかつらベース１の紐挿通部３との間を通してかつら装着者の頭部２の残毛自毛５を引き上げる。以下、自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂの編込みは第１例と同様に行う。最後に所望箇所を編込んだ後に、自毛編込み用糸７a，７b、７cの紐部分４bに結着した側と反対の側を一束としてかつらベース周縁部の周方向に挿通した任意の紐部分４ｂに結着してかつらの固定作業を終了する。以上が実施例であるが、本発明は実施例の記載に限定されるものではなく、例えば、自毛編込み用糸７a，７b、７cを一束として一端を予め結んで結び目を形成してから紐部分４ａあるいは４ｂに結着させる代わりに、直接、紐部分４ａあるいは紐部分４ｂに結着してもよく、また、その結着方法としては、図３（ｂ）で示したものにかぎらず、自毛編込み用糸７が紐部分４ａあるいは紐部分４ｂから外れなければどの様なものであっても良い。

【００３７】

さらに、実施例の自毛編込み用糸７は、同一の材質、形態、太さの糸を使用したが、各自毛編込み用糸７の太さが１ｍｍ以下であれば、それぞれの材質、形態、伸縮性が異なっても差し支えない。

【００３８】

自毛編込み用糸に編込む自毛束5ｂと自毛編込み用糸７との編込み方法及び自毛編込み用糸７の数についても、実施例で示したものは一例に過ぎず、かつら装着時に良好な固定力が確保されていれば良く、例えば、自毛束編込み作業の締め付け工程において、自毛編込み用糸７ｂ及び７ｃを一緒にして自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂを旋回して締めつけることで自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂを編込んでいるが、自毛編み込み用糸７に自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂを旋回して締めつけた後に自毛編込み用糸７ｂ及び自毛編込み用糸７ｃを一緒にして自毛編込み用糸に編込む自毛束５ｂを旋回して締め付けてもよく、任意に選択することが可能である。

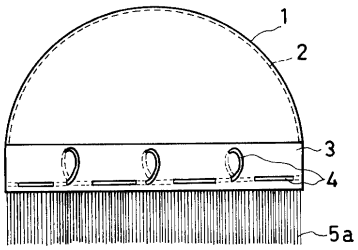
【００３９】

さらにかつらベース周縁部に配設した自毛編込み用糸７を結着する紐挿通部３についても、実施例のように紐挿通部３を配置せずにかつらベース１に直接紐を挿通してもよく、紐の挿通方法については、かつらベース周縁部の周方向及び該方向とほぼ直交する方向を１サイクルとして挿通していれば、紐の挿通状態は図２で示したものにかぎられず何れでも

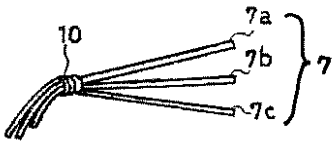
よい。
【００４０】
【発明の効果】
かつらベース周縁部に紐を挿通して、該紐に自毛編込み用糸とかつら装着者の自毛とを編込み結着することにより、禿頭部の残毛自毛周辺にかつら取付部等の加工を施す必要がなくなり、１つの工程でかつらの固定が行えること及び自毛を引き出し引っかける紐はかつらベース周縁部の周方向に挿通し、自毛と紐が直交しているために自毛の引き出しが容易になることから作業時間が短縮され、且つかつら装着者の禿頭部の残毛自毛の状態によっては、頭部全周にかぎらず所望の箇所だけの編込み結着も手軽に行える。
【００４１】
さらに、かつら装着者の自毛がかつらベースに直接作用しているために、かつらの固定力は一層強固になり、かつら装着時に強風等によってかつらがずれるあるいは外れるといった不安が解消される。
【００４２】
また、本発明のかつら固定方法を行うことにより、かつらを外す時には、自毛を切断しなくとも自毛編込み用糸を切断することで自毛の切断あるいは脱毛を伴わずに自毛と自毛編込み用糸の捩じりが容易に解かれて簡単に外せ、さらに繰り返しの着脱が可能になる。
【図面の簡単な説明】
【図１】　かつら装着者の頭部にかつらを載せた状態の概略図である。
【図２】　自毛編込み用糸の一端を結んだ概略図である。
【図３】　（ａ）及び（ｂ）は、紐に自毛編込み用糸を結着した状態の概略図及びその結着方法を示す拡大図である。
【図４】　釣針を用いて頭部残毛自毛を引き上げた状態の概略図である。
【図５】　図４において自毛を結着紐の上側に引き上げた概略図である。
【図６】　自毛束の編込み工程の第一ステップを説明するための概略図である。
【図７】　同工程の第二ステップを説明するための概略図である。
【図８】　同工程の第三ステップを説明するための概略図である。
【図９】　同工程の第四ステップを説明するための概略図である。
【図１０】　同工程の第五ステップを説明するための概略図である。
【図１１】　同工程の第六ステップを説明するための概略図である。
【図１２】　同工程の第七ステップを説明するための概略図である。
【図１３】　同工程の第八ステップを説明するための概略図である。
【図１４】　自毛束の締付け工程の各プロセスを説明するための概略図である。
【図１５】　自毛束の締付け工程の各プロセスを説明するための概略図である。
【図１６】　自毛束の紐部分への巻き付け工程を説明するための概略図である。
【図１７】　編込み箇所の緩み防止工程の各プロセスを説明するための概略図である。
【図１８】　編込み箇所の緩み防止工程の各プロセスを説明するための概略図である。
【図１９】　編込み工程から緩み防止工程までの自毛編込みの１サイクルを終えた状態の概略図である。
【図２０】　図１９の自毛編込みの１サイクルを複数サイクル行った状態の概略図である。
【図２１】　かつら固定方法の典型的な第二実施例を示す図３に相当する概略図である。
【図２２】　かつら固定方法の典型的な第二実施例を示す図５に相当する概略図である。
【図２３】　かつら固定方法の典型的な第二実施例を示す図１９に相当する概略図である。
【符号の説明】
１　　かつらベース
２　　かつら装着者の頭部
３　　紐挿通部
４　　かつらを結着する結着紐

４ｂ　かつらベース周縁部の周方向に挿通した紐部分
４ａ、４ｃ　紐部分４ｂと直交する方向に挿通した紐部分
５　　残毛自毛
５ａ　自然状態の残毛自毛
５ｂ　自毛編込み用糸に編込む自毛束
５ｃ　自毛束５ｂの先端側部分
６　　紐と自毛編込み用糸との結着部分
７ａ、７ｂ、７ｃ　自毛編込み用糸
７ｃ´　自毛編込み用糸７ｃの他端部
８　　釣針
９　　自毛束を結着紐に巻き付けた箇所
１０　自毛編込み用糸を一束として一端に形成した結び目
１１～１４、１７～１８　自毛束の通す方向
１５　かつらを外す時の自毛編込み用糸の切断位置

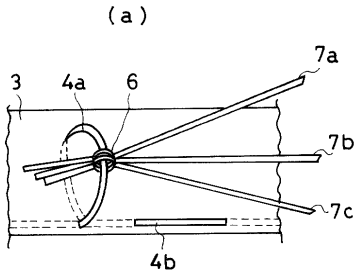
【図１】

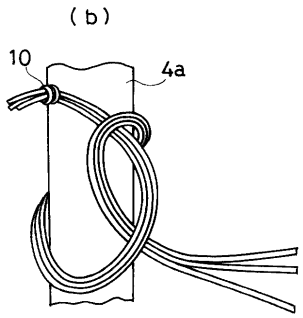


【図２】

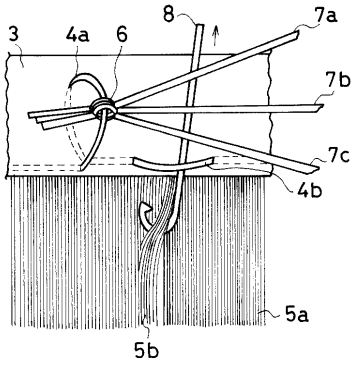


【図３】

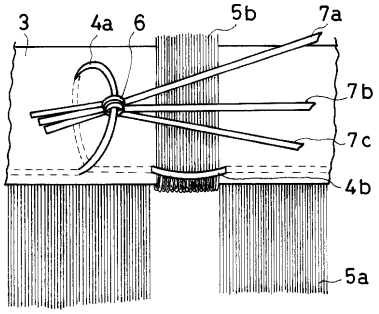




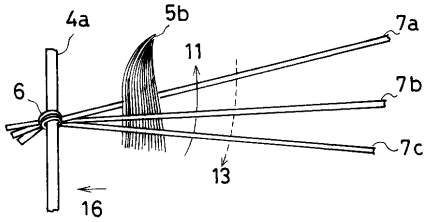
【図４】



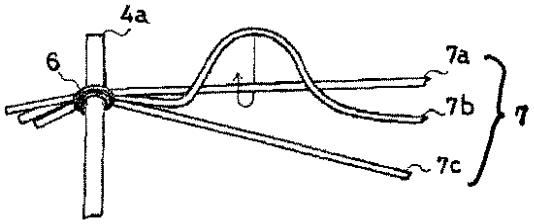
【図５】



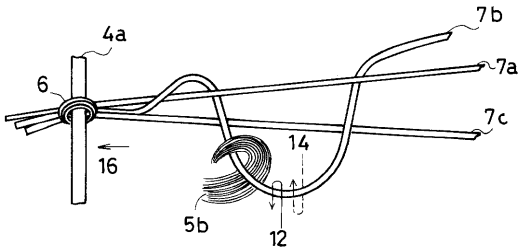
【図６】



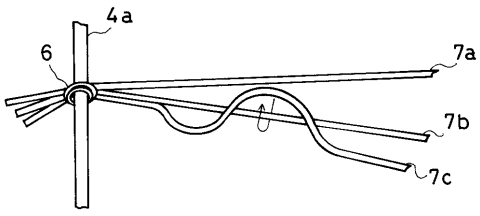
【図７】



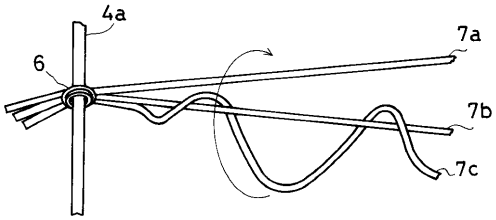
【図８】



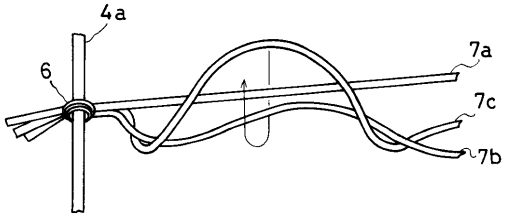
【図９】



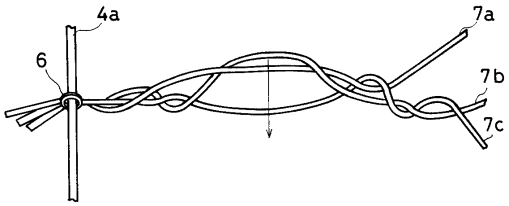
【図１０】



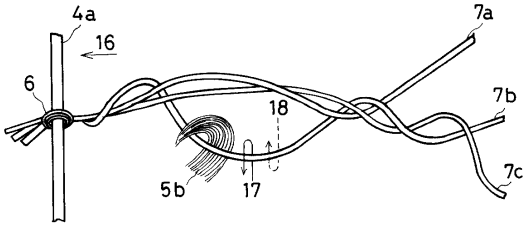
【図１１】



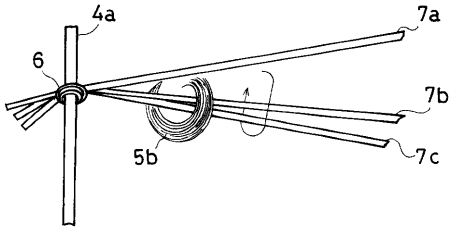
【図１２】



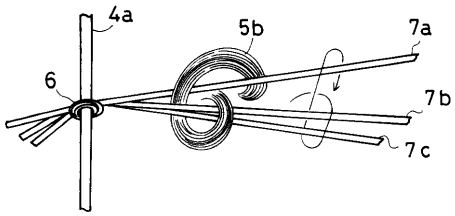
【図１３】



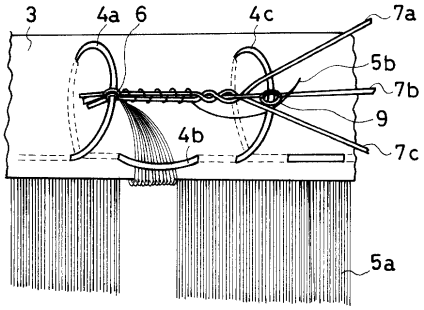
【図１４】



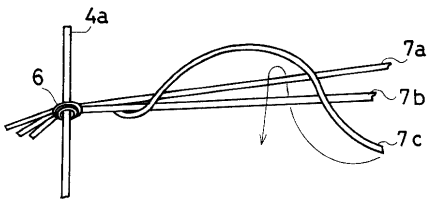
【図１５】



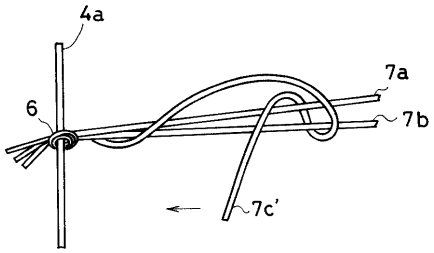
【図１６】



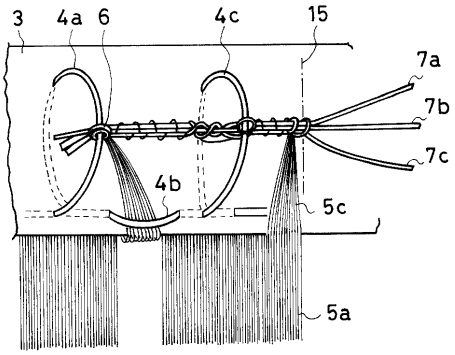
【図１７】



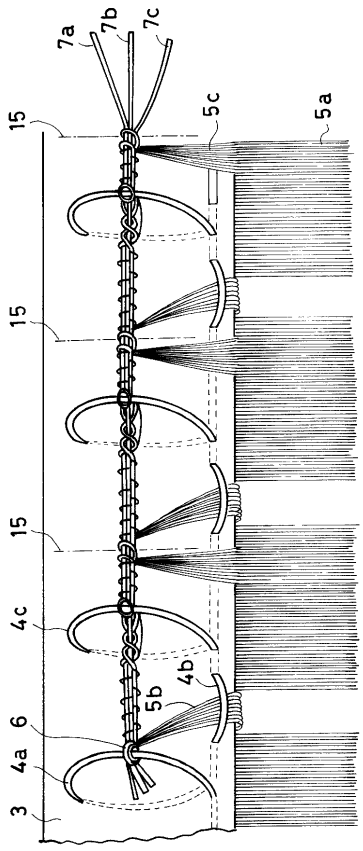
【図１８】



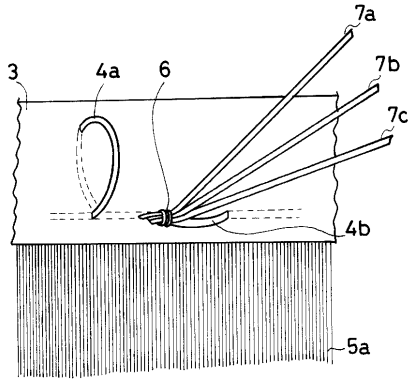
【図１９】



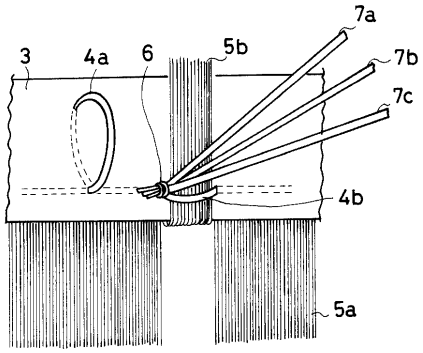
【図２０】



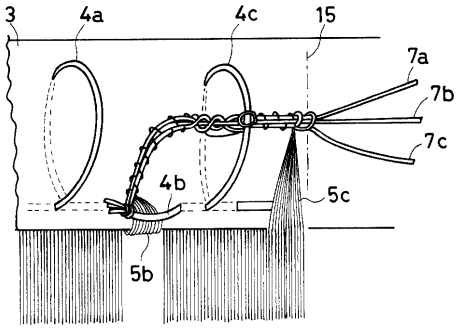
【図２１】



【図２２】



【図２３】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., ＤＢ名)
A41G 3/00- 5/02